



江東区

TOKO TOKO  
まちあるき

江戸東京の消費を支える物流の拠点であった深川。  
なかでも佐賀町は全国の米が集まった場所で、  
現在もその名残で倉庫業を営む会社が数多く存在します。

# 深川佐賀町・永代橋コース

都営地下鉄門前仲町駅は  
北緯35度40分21.78秒  
東経139度47分42.36秒  
でござる。

距離  
約2km  
目安所要時間  
約120分



- 江東区文化観光ガイド  
～区内のまちあるきガイドサービス～  
江東区文化観光ガイド事務局 ☎03-6458-7410  
受付時間：9時～17時(土・日・祝日・年末年始を除く)
- 深川東京モダン館  
～江東区の観光・まちあるき案内所～  
住所：江東区門前仲町1-19-15 ☎03-5639-1776  
開館時間：10時～18時(金・土は19時まで)  
休館日：月曜(祝日の場合翌営業日)及び年末年始

R5年9月よりおひとり200円頂戴いたします。

## ①深川東京モダン館

昭和7年(1932)竣工の「旧東京市深川食堂」の外観イメージを色濃く残して改修し、平成21年10月にオープンしました。国登録有形文化財(建造物)です。タイル張りの階段まわり、床や壁面には戦前にも耐えた建設当時の丸窓に特長があります。1階は江東区の観光・まちあるき案内スペース、2階は多目的スペースとなっています。

## ②伊能忠敬住居跡

伊能忠敬はこの住居を拠点として、日本で初めて実測による「伊能図」と呼ばれる地図を作りました。その地図は現在の地図とほとんど変わらない正確さです。佐原で商人として成功し、家督を長男に譲って50歳で江戸に出て深川黒江町(現・門前仲町1丁目)に住居を構えました。好きな天文学、数学、測量を幕府天文方の高橋至時に学び、子午線1度の測量の旅をはじめとして、蝦夷地、屋久島、種子島に至るまで、自分の足で全国を歩き測量を行いました。

## ③澁澤倉庫発祥の地(澁澤榮一宅跡)

澁澤榮一は、天保11年(1840)に現在の埼玉県深谷市に生まれ、明治・大正期の実業家として活躍し、日本財界の指導者となりました。幕末、一橋家に仕えフランスに派遣されたことが転機となります。維新後に帰国して明治政府財務官を3年で退官して実業界に転身。500余りの会社設立に関与し道徳経済を提唱した、近代日本の創造者の一人です。明治9年(1876)から21年まで深川福住町(現・永代2丁目)に住み、実業界での活躍の傍ら、当時の深川区会議員(議長)を務めました。明治30年、この地に「澁澤倉庫」を創業しました。

## ⑥赤穂浪士休息の地



吉良邸討ち入りの日は  
元禄15年(1702年)  
12月14日。

## ⑦永代橋

3年に1度の深川八幡祭りでは  
五十数基の神輿がまちを練り歩きます。  
永代橋を渡る神輿行列は壮観です!



伊能忠敬に澁澤榮一、  
赤穂浪士まで!?  
都会のまちなかには有名人に  
関する史跡がこんなに!

## ④佐久間象山砲術塾跡

幕末の兵学者・思想家。信州松代藩真田家の家臣で、江川太郎左衛門に高島流西洋砲術を学び、嘉永3年(1850)の7月から12月までの半年間、この深川小松町(現・永代1丁目)の松代藩下屋敷で西洋砲術塾を開き、勝海舟、坂本龍馬、吉田松陰、橋本左内、河合継之助など、多くの有能な門下生を教授しました。その後、江戸木挽町(現・中央区銀座)に兵法や砲術を教える私塾を開いています。開国論者として知られ、ペリー来航時の吉田松陰の密航未遂事件に連座して松代に幽閉されたこともあり。その後、幕命で京都に上りますが、元治元年(1864)に攘夷派浪士に殺害されました。



伊能忠敬に澁澤榮一、  
赤穂浪士まで!?  
都会のまちなかには有名人に  
関する史跡がこんなに!

## ⑤深川正米市場跡

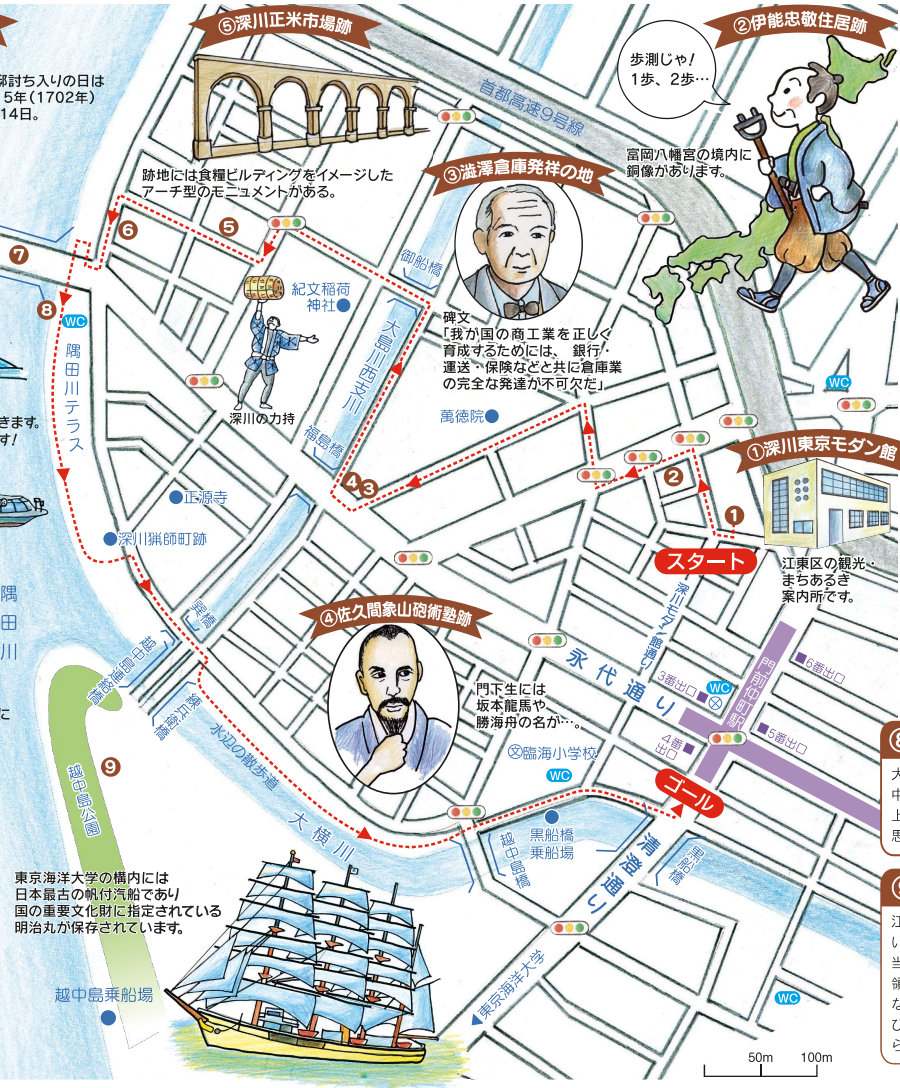
明治19年(1886)、深川佐賀町(現・佐賀町1丁目)に現物の米を取引する公開の正米市場が開設されました。建物は木造平屋建てでしたが、関東大震災で焼失して昭和2年(1947)に鉄筋3階建てのレンガ造のビルに建て直され、米穀の自由売買が行われました。昭和16年、戦時体制による米の配給制が開始されると、正米市場は廃止されました。建物は、「食糧ビルディング」の名で平成14年まで残されて、アートギャラリーや映画のロケに使用されるなど、モダンな建物として親しまれました。

## ⑧大川口の渡し跡

大川口の渡しは、深川熊井町(現・永代1丁目)と京橋区越前堀(現・中央区)を結び、明治6年(1873)に設けられた隅田川の渡しでした。上流に永代橋があったにもかかわらず、住民は頻りに利用していたと思われ。明治40年頃に廃止されたようです。

## ⑨越中島

江戸初期に畠状の土地を榊原越中守が幕府から拝領、屋敷を持っていったことから名付けられた地名です。高波などによる浸食が激しく、当地は幕府に一旦返上されますが、後に幕臣43名が屋敷地として拝領したとされています。幕末には幕府の軍事訓練場、砲術訓練の場となりました。続いて新政府の陸軍練兵場となり、明治天皇の観閲をたびたび受けました。明治35年(1902)、霊舟島(現・中央区新川)から東京商船学校(現・東京海洋大学)が移転し、今日に至っています。



江東区の観光情報やアクセス方法については、  
江東区観光協会の公式 Web サイト  
「江東おでかけ情報局」をご覧ください。

